

学校だより太田

平成26年6月号 和歌山市立太田小学校

避難訓練をしたよ（5月30日）

授業中に地震が起き、その後火災が発生し、鎮火後に津波警報が発令されたという想定で避難訓練を行いました。始めに、地震のとき落下物などから身を守るため、机などの下に身をかくし地震がおさまるのを待ちました。次に、火災が発生した放送を合図に、運動場に全校児童が集まりました。ハンカチなどを口に当て、静かに避難できました。その後、津波に備え、1年生は6年生に、2年生は5年生に手を引いてもらい、全校児童が3階に避難する訓練を行いました。1年生は、入学後初めての避難訓練でしたが、真剣に行動できました。2学期は不審者侵入、3学期は休憩時間での地震・火災・津波を想定した訓練を行う予定です。

人と防災未来センター(神戸市)を見学して

5月9日に、5年生と一緒に神戸市にある“人と防災未来センター”を見学しました。このセンターは、平成7年1月17日午前5時46分に発生した阪神淡路大震災の教訓を後世に継承していくために建てられた施設です。この大震災が起こったとき、和歌山市でもゆれている時間が長く、恐怖を感じられた方も多くいらっしゃったことでしょう。このセンターを見学して、19年前に感じた地震の怖さを思い出しました。

ところで、「津波てんでんこ」という言葉を知っていますか。これは、津波からの避難の仕方を表しているそうです。

大きな地震が発生したとき、当然のことと思いますが、家族のことが心配になり、家族を探して、避難するのが遅くなりがちです。その結果、津波に巻き込まれてしまうこととなります。そうではなく、家族は、日頃から避難する場所などを話し合っておき、互いを信頼して、「めいめい」で、つまり、“ひとり”で避難をするということだそうです。

日頃より、非常食などの準備をしておくことも大切なことですが、家族で、地震などが発生したときの避難のしかたや避難の場所などを考えておくことも大切なことです。